

# 令和5年度 アメリカ研修 A 班レポート

江本鈴・森中阿紀・石川貴子・村岡倫・渡邊翔真

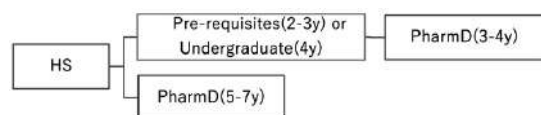
## 概要

2024年2月19日～3月1日の12日間、アメリカ研修に参加した。

ウェスタン大学で授業を受け、ウェスタン大学薬学部生と交流した。

## 薬学教育

アメリカの薬学プログラムは2種類ある。1つ目は高校卒業後2～3年のプレリクエストを履修するか、4年生の大学を卒業し、その後3～4年間薬学校で学ぶ方法である。2つ目は高校卒業後5～7年薬学校で学ぶ。薬剤師になるためには、PharmDを取得し、NAPLEXとCPJEと呼ばれる試験の両方に合格する必要がある。



アメリカの薬学カリキュラムは、日本に比べ実習時間が多い。座学も臨床重視な講義が多いため、授業のない夏休みの期間に IPPE という臨床実習がある。また、最終学年で APPE と呼ばれる臨床実習が病院、薬局両方で行われる。毎週のように小テストが行われ、アウトプットが多い印象を受けた。アメリカでは、インプットの後すぐアウトプットが行われ、記憶の定着を図ろうとしていると感じた。教室の机の配置は学生が議論しやすいように配置されており、より能動的に学習できるように工夫されていた。

## 病院薬剤師の役割

アメリカの病院薬剤師は、日本の病院薬剤師と比較し、より発展した役割を果たしている。まず、米国の薬剤師は予防接種ができる。実際に、COVID-19 のパンデミックの際、20%のワクチンが薬剤師によって行われたとのこと。

また、アメリカの薬剤師はフィジカルアセスメントに力を入れている。薬剤師がフィジカルアセスメントを行うことで、今まで以上に医師の処方に対する正確な監査が可能になるためである。しかし、そのためには更なる知識が必要だと痛感した。

さらに、アメリカの病院薬剤師には、日本の病院薬剤師にはない特殊な業務がある。一つに、TOC (Transitions of

Care pharmacists)と呼ばれる、退院時カウンセリングを行い、入院患者から外来患者へのフォローを行う退院時専門薬剤師である。もう一つは、手術室薬剤師である。手術前の回診に参加し、手術室内での投薬、選択、調剤を支援し、手術ケア改善プロジェクト(SCIP)ガイドラインの遵守を確認する。さらに、インフォマティック・ファーマシストと呼ばれる薬物療法に関する医療情報学を専門とする薬剤師である。患者の治療計画を改善するために、個人の健康情報を収集、保存、アクセス、利用するための電子システムを開発し、実装、監視する。基本の業務は日本の薬剤師と変わらないが、アメリカの病院薬剤師は専門業務が多くあると感じた。



図1 授業風景



図2 注射体験

## USA 観光

土曜日はディズニーランド・パーク、日曜日はロサンゼルス観光を行った。ディズニーランド・パークでは、様々なアトラクションに乗ったり、パレードを観たりしてパーク内を楽しむことが出来た。また、日本のディズニーランドとの違いを知ることが出来た。日本のディズニーランドでは、パレードの際にキャラクタ及びフロートと観客の距離が遠いがアメリカでは非常に近距離であった。アメリカのパレードの様子を図に示す。



図3 ディズニー



図で示したように非常に距離が近く、歩いているキャラクタ多いため観客とふれ触れ合っている様子が多く見受けられた。

ロサンゼルス観光では、チャイニーズシアター、ハリウッドハイランド、グリフィス天文台、サンタモニカピア、サンタモニカプレイス、プロムナード、サンタモニカビーチに行った。グリフィス天文台では、ロサンゼルスを一望することが出来たとともに自然科学も学ぶことが出来た。サンタモニカでは、買い物や散策をし、ビーチに行った。ビーチでは、多くの観光人客で賑わっており、日本人も多く見かけた。夕方のビーチは非常に美しかった。

また、ハリウッドやサンタモニカなどの観光地では特に大麻を使用している人が多数おり、非常に特徴的で独特な不快な臭いがしていた。カルフォルニア州でマリファナは合法とされているが、連邦法では禁止されている。日本では絶対にできない経験だと感じたと共に薬学生として貴重な経験ができたと感じた。

## ペンパルプログラム

WesternU 薬学研修における Pen Pal Program では、WesternU 薬学部の学生との交流時間が設けられ、彼らと放課後に出かけて夕食を共に楽しんだり買い物をしたりした。この貴重な機会を通じて、アメリカの薬学教育について多くの知識を得ることができた。彼らの学内スケジュールや勉強方法について学び、実際に彼らがテストにどのように取り組んでいるのかを見ることができ、私たちが主体的に質問をすることで、アメリカの薬剤師としてのスキルや知識の向上にも繋がりました。また、ランチタイムにはお互いに時間を設け、アメリカや日本における薬学教育について発表し、相互理解を深めた。



図4 ペンパルとの交流

## 感想

研修前までは、英語ができるか学校の授業についていけるか不安がいっぱいで出発した。実際に行ってみると英語が喋れなくても単語だけでも伝わり、学校の勉強も通訳さんがいるので理解できた。アメリカでの授業を通して、日本との薬剤師の違いについて理解することができ、日本の薬剤師の良いところや改善したほうが良い点を自分の中で明確化することができた。また、日本ではできない注射の練習が特に楽しくて印象に残った。学校の後は、ペンパルとご飯に行くか、一緒に日本から来た人とショッピングやご飯を食べに行ったので、毎日が充実していた。アメリカでの食事はとにかく量が多く、ハンバーガーばかり食べていた。元々知らない人同士での研修でしたが、普段は関わりの少ない他学年の人とも最終的には仲良くなることができ、交友関係を深めるという点でもとても良い研修になった。